

《運営方針》

日本 WHO 協会は、国際連合の専門機関である世界保健機関（WHO）の行っている活動や情報を多くの人びとに迅速かつ適切に伝えるという使命を担っている。これまでも、WHO 健康開発総合研究センター（WHO 神戸センター）をはじめ、多くの WHO 関係者の方々との連携のもとで活動を行ってきた。

今後は、WHO のホームページにおけるファクトシートをはじめ WHO に関する日本語情報のワンストップ・サービスをめざすとともに、機関誌「目で見える WHO」をさらに魅力的なものに編集していく。

日本国内で、WHO やグローバルヘルスに関連する病院や大学や研究所、民間企業、NGO/NPO などの市民社会とのネットワークを強化する。とくに、WHO 神戸センターや日本国内で幅広い分野にわたり活躍されている WHO 協力センター（WHO Collaborating Centre）との協働を重視する。

日本 WHO 協会では従来から、WHO インターンに支援を行う制度を通じて、若い世代の育成に注力してきた。今後は、グローバルヘルスに関する研究会を定期的を開催することや、WHO インターン経験者の会合を開催するなど、海外に羽ばたこうとしている若い世代の自主的な活動を積極的にサポートする。

さまざまなプロジェクトを通じて、世界の人々の健康を守るために地球市民の一員として、WHO をはじめとする国際機関、国、地方自治体、企業、NPO/NGO などと協働しつつ、だれひとり取り残さない「持続可能な開発目標」（SDGs）の目標達成をめざして活動していく。

《重点課題》

- (1) WHO ファクトシートの全訳をめざすとともに、ホームページを充実し、WHO に関する日本語情報のワンストップ・サービスを提供する。
- (2) セミナーやワークショップ、「目で見える WHO」などを通じて、WHO やグローバルヘルスに関連する医療機関、病院、大学、民間企業、NGO/NPO などとのネットワークを強化する。
- (3) WHO インターン支援をより一層強化し、「関西グローバルヘルスの集い（KGH）」の活動を定着させ、グローバルヘルスをめざす人材の育成を推進する。
- (4) 魅力的な活動を提供することにより、賛助会員の倍増を目指す。

《事業別計画》

WHO をはじめ公衆衛生に関する諸情報について、フォーラム、機関誌やウェブサイト等を通じて多くの人々に認識して頂くため、次の事業を行う（分類は定款第4条事業区分による）。

1. WHO 啓発事業

（WHO 憲章精神の普及及び健康に関するフォーラム等の開催並びに機関誌広報等の啓発事業）

① ホームページの拡充

ウェブサイト及びメールマガジンにおいて、WHO に関する最新情報、ファクトシートの日

本語訳など健康に関連する啓発知識や協会活動の情報を逐次発信する。
協会活動をより広く周知するため、ホームページの改革を行う。

② フォーラムの開催

WHO の施策動向や社会的ニーズに対応したテーマを選定し健康関連パブリックオピニオンの醸成や健康意識高揚に寄与するセミナーを実施する。

本年度は、WHO 神戸センター、大阪府医師会及び大阪府歯科医師会との共催フォーラムを実施する。

③ 機関誌の発行

編集委員会活動を推進し、「目で見る WHO」誌を年4回発行する。

④ 情報提供サービス

ワンワールドフェスティバルへの出展等により、WHO及び当協会の活動を広く周知すると共に、各種の相談対応を行う

2. 研究・提言事業

(健康に関する調査研究の受託・委託及び助成並びに研究成果に基づく提言等の研究事業)

- ① 本協会の目的に適合し公益性を持った研究についての受託、斡旋、委託を進め、選考委員会による選定を得たものについて助成を行う

3. 連携・協力事業

(国内外で健康に関する社会貢献活動を行う企業、団体並びに個人との連絡・調整・協力等の連携事業)

- ① 関西感染症フォーラム等啓発事業として共同参画できる事業や当協会事業目的と整合する他団体事業について共催、後援を行う
- ② 健康に関する社会貢献活動を行う企業、団体、個人との連携を図り、本協会ルートでの紹介広報等の協力を行う
- ③ 関連団体などとの連携を深め、補助金・助成金の獲得を行う。

4. 支援・募金事業

(WHO の事業目的達成に寄与するための募金活動及び募金収益の拠出並びに活動協力等の支援事業)

- ① エイズ撲滅基金への募金活動をフォーラム等の機会を活用して継続実施し、その収益を拠出する
- ② WHO のニーズに応じた協力支援や募金活動を行う。

5. 人材開発事業

(WHO への人的貢献の拡大や国際保健衛生の向上につながる人材育成事業)。

- ① 若者の国際保健衛生関連分野への意欲喚起のため、関西グローバルヘルスの集いを年6回

開催すると共に、jaih-s（日本国際保健医療学会学生部会）との共催フォーラムを行う。

② WHO インターンシップ対象者に対する支援を行う。

6. その他事業

（その他本協会の目的達成に必要な事業）

① WHO、WKC 及びその関係者との交流を進める